

# ルーマニア月報

2025年6月号

本月報はルーマニアの報道等をもとに、  
日本大使館がとりまとめたものです。

令和7年7月11日  
在ルーマニア日本国大使館作成

## 主要ニュース

### 【内政】

- 6月11日～13日に実施されたUSR党首選挙で、フリッツ・ティミショアラ市長が67.2%の票を獲得し、新党首に就任。
- 6月23日、PSD、PNL、USR、UDMRおよび少数民族グループは政治合意に署名。首相輪番制で合意。2025年6月から2027年4月の期間の首相はPNLが指名し、2027年4月から2028年12月の期間はPSDが指名。
- 6月23日、ポロジャン首相候補によって提出された閣僚名簿案が上下両院合同会議で可決。PSD、PNL、USR、UDMR、少数民族グループによる大連立政権が議会で承認。宣誓式を経てポロジャン新内閣が発足。
- 6月24日、アブルデアン上院議長（PNL）、グリンデアヌ下院議長（PSD）をそれぞれ議会で承認。
- 6月24日、上院はPSDが支持するブスイオク（Mihai Busuioc）会計検査院長を、下院はUDMRが提案したアスタロシュ（Csaba Asztalos）国家差別防止評議会議長を憲法裁判所裁判官に選出。

### 【経済】

- 6月23日、欧州理事会は、ルーマニアが過剰財政赤字是正手続きから抜けるために、歳出の伸び率を2025年は2.8%、2026年は2.6%を超えないようにする旨の勧告を発表。

### 【外政】

- 6月2日、ダン大統領はリトアニアのビリニュスで開催されたブカレスト9（B9）および北欧サミットに出席。
- 6月11日、ダン大統領はウクライナのオデッサで開催されたウクライナ・南東欧サミットに出席。
- 6月24日～25日、ダン大統領は、オランダ・ハーグで開催されたNATOサミットに出席。

### 【防衛・安全保障】

- 6月24日、モシュテアヌ国防相は、ハーグでのNATO国防大臣会合に出席。

### 【我が国との関係】

- 6月23日、加藤明良経済産業大臣政務官を団長とした20を超える日系企業及び政府系機関からなる日本の経済ミッションがルーマニアを訪問し、運輸・インフラ省、エネルギー省及び経済・デジタル化・起業・観光省の関係者と意見交換を行う「運輸・エネルギー・デジタル化に関する日本・ルーマニア対話2025」が開催され、片江大使が参加。
- 6月24日、片江大使は、同日就任して間もないアブルデアン上院議長を表敬訪問。
- 6月25日～28日、アブルデアン上院議長が大阪関西万博2025ルーマニア・ナショナル・デーにルーマニア側の万博賓客として参加。額賀衆議院議長、生稲外務大臣政務官、西村元経済産業大臣等と会談した他、NTT、経団連等とも面会。

# 内政

## ● USR 党首選挙

- 6月11日～13日にオンラインで実施され、9名が立候補した USR 党首選挙で、フリッツ・ティミショアラ市長が 67.2%の票を獲得し、新党首に就任した。2位はアレクサンドル上院議員（22%）。

## ● 与党が連立政権の形成に関する政治合意に署名

- 6月23日、PSD、PNL、USR、UDMR および少数民族グループは政治合意に署名。
- 首相の職を輪番制で務めることに合意。2025年6月から2027年4月の期間の首相は PNL が指名し、2027年4月から2028年12月の期間は PSD が指名。
- 政府の構成は、首相、16の省庁（うち6つは PSD、4つは PNL、4つは USR、2つは UDMR が大臣を決める）から成り、政府には3名の無任所副首相（PSD と UDMR から各1名、無所属1名）と、2名の任所付き副首相（PNL と USR から各1名）が置かれる。
- 財政赤字の削減と税制改革のための緊急計画の採択も規定。ルーマニアの欧州及び欧州大西洋路線の維持は引き続き優先事項。

## ● ボロジャン新内閣の発足

- 6月23日、上下両院合同会議において、ボロジャン首相候補によって提出された閣僚名簿案が賛成 309 票、反対 9 票（総議員数は 464 名で過半数は 233 票、多数の野党議員は欠席し投票をボイコット）で可決され、PSD、PNL、USR、UDMR、少数民族グループによる大連立政権が議会で承認。同日夜、ボロジャン内閣閣僚は大統領府において就任の宣誓式を行い、正式にボロジャン新内閣が発足。

- ◇ 首相 イリエ＝ガヴリル・ボロジャン (Ilie Gavril Bolojan) (PNL)
- ◇ 副首相 マリアン・ネアクシュ (Marian Neacsu) (PSD)
- ◇ 副首相 タンツォシュ・バルナ (Tanczos Barna) (UDMR)
- ◇ 副首相 ミカエル＝ドラゴシュ・アナスタシウ (Michael-Dragos Anastasiu) (無所属)
- ◇ 副首相兼内相 マリアン＝カタリン・プレドイウ (Marian-Catalin Predoiu) (PNL)
- ◇ 副首相兼国防相 リヴィウ＝ヨヌツ・モシュテアヌ (Liviu-Ionut Mosteanu) (USR)
- ◇ 運輸・インフラ相 チプリアン＝コンスタンティン・シエルバン (Ciprian-Constantin Serban) (PSD)
- ◇ 財務相 アレクサンドル・ナザレ (Alexandru Nazare) (PNL)
- ◇ 法務相 ラドゥ・マリネスク (Radu Marinescu) (PSD)
- ◇ 農業・地方開発相 フロリン＝ヨヌツ・バルブ (Florin-Ionut Barbu) (PSD)
- ◇ エネルギー相 ボグダン＝グルイア・イヴァン (Bogdan Gruia Ivan) (PSD)
- ◇ 保健相 アレクサンドル＝フロリン・ロゴベテ (Alexandru-Florin Rogobete) (PSD)
- ◇ 欧州投資・事業相 ドラゴシュ＝ニコラエ・プスラル (Dragos-Nicolae Pislaru) (無所属)
- ◇ 教育・研究相 ダニエル＝オヴィディウ・ダヴィド (Daniel-Ovidiu David) (無所属)
- ◇ 外相 オアナ＝シルヴィア・ツォイウ (Oana-Silvia Toiu) (USR)
- ◇ 環境・水利・森林相 ディアナ＝アンダ・ブゾイアヌ (Diana-Anda Buzoianu) (USR)
- ◇ 労働・家族・青年・社会連帯相 ペトレ＝フロリン・マノレ (Petre-Florin Manole) (PSD)
- ◇ 経済・デジタル化・起業・観光相 ラドゥ＝ディネル・ミルツァ (Radu-Dinel Miruta) (USR)
- ◇ 開発・公共事業・行政相 チェケ・オティラ＝ゾルタン (Cseke Attila-Zoltan) (UDMR)
- ◇ 文化相 デメテル・アンドラシュ・イシュトヴァン (Demeter Andras Istvan) (UDMR)

## ● 上下院議長の選出

- 6月24日、上下院でそれぞれの議長が承認された。
  - ◇ 上院議長 ミルチャ・アブルデアン (Mircea Abrudean) (PNL)
  - ◇ 下院議長 ソリン・グリンデアヌ (Sorin Grindeanu) (PSD)

## ● 政策綱領の承認

- 6月23日夜、内閣名簿と同時に政策綱領も承認された。外交政策等は過去の政府方針を維持。
  - ◇ 【経済政策】 税金・租税負担の引き上げ、中央政府職員数を平均20%削減、年金・給与の上限設定、給与削減、一部手当の廃止、税制改革の実施、特別年金制度の改革、国有企業の再編。
  - ◇ 【外交政策】 親 NATO、親 EU、米国との戦略的パートナーシップは「ルーマニア外交・安全保障政策の基盤として維持」、モルドバおよびウクライナへの支援、EU 東方近隣地域で主導的役割を果たし、欧州の価値観、法の支配を推進し、ロシアの干渉を抑止。ルーマニアの OECD 加盟推進。
  - ◇ 【国防政策】 安全保障環境および NATO・EU の決定に沿い、国防支出と投資を GDP 比 5%まで段階的に引き上げ（うち GDP 比 3.5%は基本国防費、GDP 比 1.5%は国防に関連する幅広い投資・費用）。
  - ◇ 【日本関連】 M6 に言及、日本および韓国との戦略的パートナーシップの強化を推進。

## ● 憲法裁判所裁判官の任命

- 6月24日、ルーマニア上下院は、任期満了に伴い憲法裁判所裁判官2名を任命した。上院は PSD が支持するブスイオク (Mihai Busuioc) 会計検査院長を、下院は UDMR が提案したアスタロシュ (Csaba Asztalos) 国家差別防止評議会議長をそれぞれ選出。
- 憲法裁判所裁判官は計9名で、任期は9年（延長・再任不可）。下院、上院、大統領が各3名ずつ指名する。

## ● 世論調査 (INSCOP) の結果 (調査実施期間 5月26日~30日、対象者: 1,150名、統計上の誤差は±2.9%)

- 政党支持率 AUR 38.1%、PSD 17.4%、PNL 16.0%、USR 12.2%、UDMR 4.5%
- 支持率 ダン大統領 47%、ポロジャン首相 (PNL) 42.2%、シミオン下院議員 (AUR) 33.9%

【政党略称】 PSD: 社会民主党、PNL: 国民自由党、AUR: ルーマニア人統一同盟、UDMR: ハンガリー人民主同盟、USR: ルーマニア救国同盟、POT: 青年党、PUSL: 社会自由ヒューマニスト党、AFD: 右派の力連合

# 経済

(1) 主要経済統計とりまとめ (国家統計局、財務省、ルーマニア中央銀行 発表とりまとめ)

## ● 国家統計局 (INS)

	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4
貿易収支 (億€)	-272.117	-300.549	-333.927	-27.386	-56.169	-84.536	-116.063
消費者物価指数(%)	4.67	5.11	5.14	4.95	5.02	4.86	4.85
失業率 (%)	5.7	5.6	5.7	5.5	5.6	5.5	5.7
平均グロス給与 (€)	1,732	1,775	1,861	1,793	1,797	1,910	1,883
平均ネット給与 (€)	1,060	1,084	1,135	1,072	1,076	1,145	1,129

## ● 財務省 (MF)

	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4
財政収支 (億 lei)	1094.167	1257.192	1527.174	110.118	302.372	436.372	559.710
GDP 比 (%)	-6.19	-7.12	-8.65	-0.58	-1.58	-2.28	-2.95

## ● ルーマニア中央銀行 (BNR)

	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4
政策金利 (%)	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50	6.50
外貨準備高 (億€)	628.41	611.74	621.35	608.37	625.93	619.93	624.14
経常収支 (億€)	-242.10	-263.01	-293.70	-16.46	-48.09	-76.56	-101.03
前年同期 (億€)	-184.53	-197.70	-214.91	-14.20	-26.00	-42.01	-62.89
FDI (億€)	55.12	58.52	57.30	5.43	10.31	16.72	19.97
前年同期 (億€)	59.04	66.11	67.48	11.48	16.60	24.81	22.73
前年同期比 (%)	-6.64	-11.5	-15.08	-52.70	-37.89	-32.60	-12.14
中長期対外債務 (億€)	1381.98	1537.34	1544.33	1534.61	1585.05	1568.81	1589.68
前年末比 (%)	+13.2	+12.2%	+12.7	-0.6	+2.3	+1.2	+2.6
短期対外債務 (億€)	481.50	487.20	491.42	484.82	497.82	485.26	501.21
前年末比 (%)	+4.2	+5.4	+6.3	-1.3	-0.2	-2.7	+0.5

## ● 消費者物価指数 (国家統計局 (INS) ・ユーロスタット)

	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4
消費者物価指数(%)	4.67	5.11	5.14	4.95	5.02	4.86	4.85
食料品価格(%)	4.75	5.11	5.09	4.54	4.54	5.10	5.57
非食量品価格(%)	3.45	4.15	4.38	4.60	4.79	3.84	3.53
サービス価格(%)	7.66	7.56	7.10	6.54	6.42	6.99	6.83
ユーロ圏平均	2.0	2.2	2.4	2.5	2.3	2.2	2.2
EU27 カ国平均	2.3	2.5	2.7	2.8	2.7	2.5	2.4

● **業種別（前年同期比）（国家統計局（INS）・ユーロスタット）**

	2024/10	2024/11	2024/12	2025/1	2025/2	2025/3	2025/4
<b>鉱工業</b>							
工業生産高（%）	-0.9	-1.3	-3.4	2.1	-3.2	-7.6	-2.4
工業売上高(名目)（%）	8.2	5.2	8.6	-0.4	-1.9	3.6	-2.8
工業製品物価指数（%）	-3.3	-0.4	-0.7	-0.1	4.0	3.3	1.8
新規工業受注高(名目)（%）	7.9	7.1	7.7	-3.5	-0.2	8.9	0.1
<b>小売業</b>							
小売業売上高(除:自動車・バイク)（%）	10.6	9.2	7.8	3.2	3.3	3.4	3.1
自動車・バイク売上高(%)	6.3	5.0	-2.8	1.4	0.1	1.6	-4.7
小売業売上高 ユーロ圏平均(%)	1.9	1.2	1.9	1.5	2.3	1.5	2.3
小売業売上高 EU 平均(%)	2.1	1.5	2.0	1.6	2.0	1.4	2.8
<b>建設業</b>							
工事(%)	-11.6	-9.3	-14.3	34.1	6.7	3.1	-2.8

**(2) 主要経済関連**

● **2024 年、ルーマニアの月平均総所得は 15.3%増の 8,270 レイ/世帯**

➢ 6月10日、ルーマニア国家統計局は、2024年のルーマニアの月平均総所得は名目ベースで8,270レイ/世帯（1人当たり3,302レイ）となり、2023年比でそれぞれ15.3%増加した旨を発表した。また、2024年の月平均支出総額は、名目ベースで1世帯当たり7,013レイ（1人当たり2,800レイ）となり、総収入の84.8%を占め、2023年と比較して790レイ増加となった。

● **ルーマニアのインフレ率、2025年5月に5.5%で12ヶ月ぶりの高水準に**

➢ 6月12日、ルーマニア国家統計局は、ルーマニアのインフレ率が、3月・4月に4.9%まで下落した後、5月には5.5%に急上昇した旨を発表した。サービス価格は7.0%上昇、食品価格は6.5%上昇、非食品価格は4.0%上昇した。

● **ルーマニア、2025年第1四半期のEU内での時間当たり人件費の年間上昇率が最高**

➢ 6月17日、EUの統計局であるユーロスタットは、ルーマニアは2025年第1四半期にEU内で時間当たり人件費の年間上昇率が最も高くなった旨を発表した。時間当たり人件費は、2025年第1四半期、EU全体で3.4%、ユーロ圏で4.1%上昇したが、ルーマニアの年間上昇率は16.1%と突出しており、次いでクロアチア（13.5%）、ブルガリア（13%）、スロベニア（11.9%）、ポーランド（11.2%）、ハンガリー（10.2%）と続いた。伸び率が最も低かったのはマルタ（1.6%）とフランス（1.9%）だった。

● **ルーマニア、2024年の外国直接投資（FDI）プロジェクト数が57%増加、中東欧諸国で最高**

➢ 6月18日、EY社は、EY魅力度調査ルーマニア2025において、ルーマニアへのFDI流入額は2023年の66億ユーロから昨年14%減の57億ユーロとなった一方、FDIプロジェクト数は57%増加し、中東欧諸国で最高となった旨を発表した。結果として、ルーマニアは欧州のFDI誘致指数ランキングで4位順位を上げて13位となっている。

● **欧州理事会、ルーマニアに対し歳出の増加率に関する勧告**

➢ 6月23日、欧州理事会は、ルーマニアは過剰財政赤字是正手続きから脱するために、歳出の伸び率を2025年は2.8%、2026年は2.6%を超えないようにする旨の勧告を発表した。また、不均衡を適時に是正するために必要な効果的な行動を取り、必要な措置を提示する期限を10月15日に設定した。さらに、歳出の増加率については2027年は4.6%、2028年は4.4%、2029年は4.2%、2030年は4%を超えないよう勧告した。

### (3) その他トピックス

- **ウルス・ブルワリーズ、ブザウ醸造所に 1,500 万ユーロを投資**
  - 6月16日、日本のアサヒ・グループHD傘下のルーマニアビール市場最大手のウルス・ブルワリーズは、47年の歴史を持つルーマニア最大の生産量を誇るブザウ醸造所に1,500万ユーロを投資する旨を発表した。同醸造所は2006年、2007年、2009年に大規模な投資を行っている。ウルス・ブルワリーズの2024年の売上高は28億レイで2023年から5%増加。利益は2.77億レイに達し、2023年より42%増加した。
- **ルーマニア国民の72%以上が国防費の増額を支持**
  - 6月17日、INSCOP社は、ルーマニアの72%以上の国民は、ルーマニアが軍事的侵略を受けた場合に主権を守れるよう国防費の増額を支持すると回答した旨の調査結果を発表した（調査は5月26日～30日）。国防分野への支出を増やすことで、欧州が米国やNATOへの軍事的依存を減らすという議論が高まる中、回答者に、ルーマニアが軍事的侵略を受けた場合に主権を守れるよう、そのような見通しを支持するかどうかを尋ねたものである。
- **環境配慮型自動車の購入補助金である「ラブラ」プログラムを中断**
  - 6月18日、環境基金管理局（AFM）は、新政権が発足するまでの間、自動車更新プログラム「ラブラ」プログラムの開始を含め、すべての融資プログラムの開始を停止する旨を発表した。融資プログラムの一時停止について、新政権の優先事項がバランスのとれた持続可能で透明性のある方法で確立されるために必要であるためとしている。
  - この発表に対し、同日、ルーマニア自動車メーカー・輸入業者協会（APIA）は、自動車市場と当局に対する国民の信頼を不安定にし、決定が自動車産業と国民経済に直接打撃を与える政治的決定を非難する旨を発表した。

## 外政

- **ダン大統領、ビリニユスでのB9サミットに出席、NATOサミットの準備、ゼレンスキー・ウクライナ大統領との首脳会談**
  - 6月2日、ダン大統領はリトアニアのビリニユスで開催され、ハーグで開催予定のNATO首脳会合（6月24～26日）に向けNATO東翼国の問題意識を事前調整するブカレスト9（B9）および北欧サミットに出席した。サミットには、ブカレスト9（B9）メンバー（ブルガリア、チェコ共和国、エストニア、ハンガリー、ラトビア、リトアニア、ポーランド、ルーマニア、スロバキア）と北欧諸国（デンマーク、フィンランド、アイスランド、ノルウェー、スウェーデン）が参加した。リトアニア、ポーランド、ルーマニアの首脳は、B9サミットの議長国として声明に署名した。
  - ゼレンスキー・ウクライナ大統領との首脳会談では、ルーマニアはウクライナを支援し続け、6月11日にウクライナのオデーサで開催されるサミットに出席すると発表した。会談で、ダン大統領は、公正で永続的な平和は、力によってのみ達成でき、ルーマニアはウクライナに寄り添い続け、両国民の利益のために二国間関係をさらに深めていく旨述べた。また、ゼレンスキー・ウクライナ大統領は、ダン大統領と、和平のための外交努力、対ロシア制裁、ハーグでのNATO首脳会議について議論し、ルーマニアがウクライナのEUとNATO加盟を支持したことに感謝した。
- **ダン大統領、キシナウを訪問しマイア・サンドゥ大統領と会談**
  - 6月10日、ダン大統領はモルドバのキシナウを訪問し、マイア・サンドゥ大統領と会談した。会談では、ロシアの脅威に注意を喚起し、モルドバに対するルーマニアの支援を強調した。その他、イーゴリ・グロス・モルドバ議会議長、ドリン・レチェアン・モルドバ首相とも会談した。
- **ダン大統領、ウクライナ・南東欧サミットに出席**
  - 6月11日、ダン大統領はウクライナのオデーサで開催されたウクライナ・南東欧サミットで、「和平プロセスを遅らせ、妨害する戦略」を用いているロシアの行動を毅然と糾弾するよう呼びかけ、ロシアが理解する唯一の言語は力であり、和平合意締結の要求は不合理である旨指摘した。ロシアは建設的なイニシアチブを拒否し続けており、和平への道を損なうためにあらゆる手段を講じているとも指摘した。同サミットでは、ルーマニア、ウクライナ、モルドバ、セルビア、マケドニア、モンテネグロ、スロベニア、アルバニア、ブルガリア、クロアチア、ギリシャの11カ国の首脳、政府、議会指導者が出席した。

## ● **ダン大統領、ハーグで開催された NATO サミットに出席**

- 6月24日～25日、ダン大統領は、オランダ・ハーグで開催された NATO 首脳会合に出席した。ダン大統領の主な発言は以下のとおり。
  - ◇ ルーマニアは 2032 年までに国防予算の GDP 比 5%目標に合意する用意があったが、NATO は 2035 年になると決めた。今後 1 年半の経済バランスを見る必要がある。
  - ◇ 理想的な世界では、軍事費よりも教育にお金を使う方が良い。しかし多少の犠牲を払っても、戦争よりはすべてが良いため、国防への支出を増やし続けるだろう。
  - ◇ NATO は、大西洋を越えた結束と、欧州における米国のプレゼンスの継続、そして脅威としてのロシアとウクライナへの支援を再確認した。
  - ◇ 黒海地域の重要性を再確認した。NATO のプレゼンスに鑑み、NATO 軍を收容するための施設への投資へのコミットメントを再確認した。
  - ◇ ウクライナへの支持を再確認し、9 月に行われるモルドバの議会選挙の重要性に注意を喚起した。
  - ◇ 我々は、NATO 加盟国が EU の防衛資金調達メカニズムに参加できることを望んでいる。
  - ◇ 黒海については、ルーマニアが保有し、また今後保有するガス田を含め、安全保障の問題が重要である。
  - ◇ ルーマニアは、ウクライナ戦争が不幸な形で終わることがなせルーマニアとモルドバの安全保障に影響を及ぼすのか、国民にもっとよく説明しなければならない。
  - ◇ コンスタンツァ港は、ウクライナ復興における NATO のチャンスである。
  - ◇ トランプ米大統領とは儀礼的な事柄だけを話し合った。ルビオ米国防長官からは 5 月の大統領選での勝利の祝福を得た。米国とは、通常の間、つまり、軍事協力・戦略的パートナーシップ・小型原子炉を含むアメリカ企業の進出などの我々が発展させなければならない関係がある。

## 防衛・安全保障

### (1) 事案・イベント等

#### ● **ルーマニア海軍フリゲート艦の乗員が任務中に行方不明**

- 6月1日、海軍のフリゲート艦「キング・フェルディナンド」の乗員 1 名が行方不明となり、艦内と艦載ヘリコプターによる海上での捜索が行われている。
- 同艦は国連のリビアに対する武器禁輸措置の遵守を支援する EUNAVFOR MED IRINI 作戦参加のため、5月5日にコンスタンツァを出航し、当時はリビアのベンガジ港から約 90 海里離れた国際水域で任務中だった。
- 捜索には、ドイツ、イタリア、ルクセンブルクの空軍機が計 3 機、トルコ海軍とギリシャ海軍からフリゲート艦が計 2 隻加わっている。

#### ● **ロシアによる無人機攻撃**

- 6月12日、ルーマニア国防省は、11日（水）夜から12日（木）にかけて、ロシア軍がルーマニアとの国境付近のウクライナ（Valcov 地域）にある民間施設および港湾施設に対して無人航空機による新たな一連の攻撃を実施した旨を発表した。
- ルーマニア軍がトゥルチャ県付近のウクライナ空域内を移動する航空目標を検知し、ルーマニア空軍の F-16 戦闘機 2 機が、第 86 空軍基地から離陸しルーマニア空域での監視と防衛任務を実施した。
- 当該地域住民向けに RO アラート（ルーマニア版 J アラート）が送信されたが、国防省のレーダーシステムのデータでは、監視対象がルーマニアの空域へ不正侵入したことは確認していない。

#### ● **ロシアに関係するコロンビア人に懲役判決、ルーマニアでの破壊活動を計画**

- 6月4日、ルーマニア裁判所は、ロシア居住者の指示によりルーマニアで破壊活動（サボタージュ）を計画していたコロンビア人に対し、6年の懲役を言い渡した。

- 彼は、2024年7月にルーマニアに入国し、破壊活動計画を実行するために、綿密な情報収集活動を行い、目標の偵察や写真撮影、動画撮影を行っていたとして逮捕され、今回の判決ではイルフォフ県にあるリサイクル廃棄物貯蔵所、2つの石油採掘坑、天然ガス調整・測定ステーションといった戦略的目標を爆破する意図があったとされた。この計画は警察の介入により未遂に終わり、彼は2024年11月にDIICOT（組織犯罪テロ捜査特別検察総局）によって起訴されていた。

## (2) 訓練・演習等

### ● SABER GUARDIAN 25 (SG25)演習

- 6月9日から24日にかけて、ルーマニア各地の演習場において、SABER GUARDIAN 25 (SG25)演習が実施された。本演習はDEFENDER 25演習の一部として米欧州陸軍 (USAREUR) とルーマニアの統合任務司令部が主導しており、イタリア、モルドバ、ルーマニア、米国の約5,000名の兵士が参加し、欧州内への部隊の集中展開能力を示すことで、NATO及びパートナー国間の結束、統一、連帯を強化することを目的として実施された。
- ルーマニア軍からはF-16戦闘機、IAR-330攻撃ヘリコプター、PIRANHA装甲兵員輸送車、GEPARD自走対空砲、歩兵戦闘車両などが使用された。

### ● SEESOF 2025 (東南欧州 特殊作戦部隊フォーラム)

- 6月4日から5日にかけて、ルーマニア中部のトゥルグ・ムレシュ県において、特殊作戦部隊に特化した初の国際博覧会・フォーラムが開催され、100社以上の防衛産業企業、安全保障専門家、政府および学術機関の代表者や海外からの特殊部隊員など、20か国以上から3,000名以上が参加した。

### ● EP MCM Dive 25 (ユーラシア・パートナーシップ機雷対策潜水演習):

- 6月11日から25日にかけて、ルーマニアのコンスタンツァ港と周辺海域において、機雷対策を主眼とした多国籍海軍演習を実施した。本演習は、今年で15回目を数え、ルーマニア海軍とNAVEUR（欧州米海軍）が計画、ブルガリア、カナダ、フランス、ジョージア、ギリシャ、米国、トルコの海軍から約200名が参加した。

## (3) 主要な会談・会合等

### ● 国防大臣、NATO 国防大臣会合に出席

- 6月5日、トゥルヴァル国防大臣（当時）は、ブリュッセルのNATO本部で開催されたNATO国防大臣会合に出席し、責任の公平な分担に関するNATOの目標に対するルーマニアの支持を表明、現在の安全保障情勢において、欧州諸国が抑止力と防衛の分野への貢献を強化する必要があることを強調、防衛投資の拡大に関する提案を支持した。
- また、ロシアのウクライナ侵略によって引き起こされた安全保障環境の悪化を背景に、欧州大西洋全体の安全保障における黒海地域の戦略的役割を強調した。

### ● 国防大臣、トルコ、ブルガリアの国防大臣と三者会談を実施

- 6月5日、トゥルヴァル国防大臣（当時）は、NATO国防大臣会合の傍ら、トルコのギュレル国防大臣およびブルガリアのザブリアノフ国防大臣と三者会談を行った。
- 会談では、NATO東翼における抑止力と防衛態勢の強化、黒海機雷対処タスクグループ（MCM BS）の発展の見通し（発足以来4回目の活動）、および6月下旬のオランダ・ハーグNATOサミットにむけた3か国の貢献に焦点を当て、安全保障と防衛分野での協力強化について取り上げた。

### ● 参謀総長、ドイツ連邦軍総監とミハイル・コガルニチュアーヌ基地を訪問

- 6月5日から6日にかけて、ヴラッド・ルーマニア参謀総長はブロイアー・ドイツ連邦軍総監とともに、NATO東翼の防衛における戦略的拠点である第57空軍基地（ミハイル・コガルニチュアーヌ）を訪問した。
- 両者は、NATO内での二国間協力と相互運用性の強化について議論するとともに、ヴラッド参謀総長はルーマニアにおけるNATO領空警備任務に対するドイツ空軍の多大な貢献に感謝を表明した。

- **国防大臣、米国臨時代理大使と会談**

- 6月17日、トゥルヴァル国防大臣は、マイケル・ディッカーソン在ルーマニア米国大使館臨時代理大使と会談した。
- 会談ではルーマニアと米国の戦略的パートナーシップの強化、ルーマニアにおける米軍駐留の重要性、黒海地域におけるルーマニアの戦略的役割、集団防衛、ハイブリッド脅威、および米国との装備プログラムにおける協力を焦点を当てた。

- **新国防大臣 NATO 国防大臣会合に出席**

- 6月24日、前日に就任したモシュテアヌ国防大臣は、ハーグでの NATO 国防大臣会合に出席した。
- オランダ国防大臣が主催したワーキングディナーでは、NATO のコミットメント、新しい防衛投資計画（2035年までに GDP の5%を目標）、戦力生成、および欧州防衛産業の強化に焦点を当てた戦略的テーマについて議論をし、集団防衛と大西洋横断の結束に対するルーマニアの揺るぎないコミットメントを再確認した。

- **国防大臣、仏国防大臣と会談**

- 6月25日、モシュテアヌ国防大臣はハーグでの NATO 国防大臣会合の傍ら、ルコルヌ仏国防大臣と会談を行い、ルーマニアのチンクにある同盟軍 NATO 戦闘群（フランスが主導し、ベルギー、ルクセンブルク、スペインなどの兵士が参加）の強化と相互運用性の向上について議論した。また、黒海地域の安全保障情勢の進展を強調し、ウクライナとモルドバへの継続的な支援の必要性を強調した。

- **国防大臣、蘭国防大臣と会談**

- 6月25日、モシュテアヌ国防大臣はハーグでの NATO 国防大臣会合の傍ら、ブレケルマンス蘭国防大臣と会談し、ルーマニアの欧州 F-16 訓練センターのさらなる発展について議論するとともに、オランダからルーマニアへの18機の F-16 戦闘機の所有権をルーマニアに移転する旨の覚書に署名した。

- **国防大臣、米国国防長官と会談**

- 6月26日、モシュテアヌ国防大臣は、ハーグでの NATO 国防大臣会合の傍ら、ヘグセス米国国防長官と会談し、戦略的パートナーシップ、二国間協力の強化、および NATO 東翼の安全保障強化に対するルーマニアのコミットメントを改めて表明するとともに、ヘグセス国防長官をルーマニアに招待した。

#### **(4) 部隊・人員・装備品・防衛産業など**

- **ルーマニアとフランスの航空関連企業間協定の署名**

- 6月21日から27にかけて開催されたパリ航空ショーで、ルーマニアの航空機メーカー Avioane Craiova とイタリアの Leonard は、提携強化を目的とした大規模な協力協定を締結した。この協定には、C-27J スパルタン輸送機の近代化改修、ルーマニアにおける訓練、整備、ロジスティクスサービスの拡充が含まれている。この提携により、ルーマニア国内での航空産業が活性化され、ルーマニアの防衛自給率が向上することが期待できる旨、報じられている。

# 我が国との関係

## (1) 二国間関係全般

### ● 加藤経済産業大臣政務官を筆頭とした日本の経済ミッションのルーマニア訪問

- 6月23日、加藤明良経済産業大臣政務官を筆頭とした20を超える日系企業及び政府系機関からなる日本の経済ミッションがルーマニアを訪問し、運輸・インフラ省、エネルギー省及び経済・デジタル化・起業・観光省の関係者と意見交換を行う「運輸・エネルギー・デジタル化に関する日本・ルーマニア対話 2025」が開催され、片江大使が参加。
- 加藤政務官は訪問中、20日に正式に首相に指名され、正式就任前のボロジャン新首相やプレドウ首相代行に表敬した。その際、日本側からは同行した企業等から各分野のビジネス協力の意向が示され、新首相からは、これまでの日ルーマニア協力の成果を称えつつ、新政権移行後も日・ルーマニアの経済協力を新たな体制の下進めていく意向が表明された。
- このほか加藤政務官は、ビルチャル大統領顧問、ブルネテ大統領顧問、アナスタシウ大統領名誉顧問（23日に副首相に任命）や24日に上院議長に選出されたアブルデアン上院副議長ともそれぞれ会談し、日ルーマニア間のビジネス協力を進めていくこと等につき意見交換を行った。
- また、経済産業省とルーマニア3省との間で次の3分野での共同声明に署名された。
  - ◇ 輸送分野では、鉄道を含むインフラ近代化の可能性と官民協力の推進
  - ◇ エネルギー分野では、原子力、水素、再生エネルギー、蓄電池、二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の回収・有効利用・貯留（CCUS）の導入に向けた意見交換とウクライナ復興支援
  - ◇ デジタル分野では、ルーマニアのIT人材と日本の技術を生かした協力の可能



### ● アブルデアン上院議長との面会

- 6月24日、片江大使は、同日就任して間もないアブルデアン上院議長を表敬訪問した。
- 大阪・関西万博では6月26日をルーマニア・ナショナルデーとして祝うことになっており、同議長はルーマニア側代表として訪日し、その記念祝賀行事に出席する。
- 双方は、日本とルーマニアの戦略的パートナーシップのさらなる強化に向けて、協力を推進していくことを改めて確認。



- **アブルデアン上院議長の訪日**

- 6月25～28日、アブルデアン上院議長が大阪・関西万博2025 ルーマニア・ナショナルデーにルーマニア側の万博賓客として参加するため訪日。大阪・関西万博会場における式典、午餐会、ビジネス・フォーラム、ジョルジエ・エネスク交響楽団によるコンサートに出席したほか、ルーマニア・パビリオンを視察した。
- 東京では額賀衆議院議長、生稲外務大臣政務官、西村元経産大臣等と会談。NTT、経団連等とも面会し、ルーマニアへの投資拡大を要請。訪日を通じ、戦略的パートナーシップ強化への意欲を確認。



- (2) **広報・文化関係、大使館主催事業等**

- **片江大使による佐々木蔵之介氏の FITS での Walk of Fame 受賞記念レセプションの開催**

- 6月27日、片江大使は、第32回シビウ国際演劇祭（FITS）において、日本の俳優・佐々木蔵之介氏が Walk of Fame を受賞したことを記念するレセプションを主催し、トゥルカン元文化相、フォドル・シビウ市長らが出席する中、同受賞がこれからの日・ルーマニア、そしてシビウ市との文化交流の更なる発展のためのマイルストーンであるとして祝福した。



- **山本能楽堂による能ワークショップの開催と同団体に対する感謝状授与**

- 6月29日、在ルーマニア日本国大使館は、公益財団法人山本能楽堂及びルーマニア国立美術館との共催で能のワークショップを開催した。ワークショップでは、山本能楽堂の山本章弘代表から能の歴史等に関するレクチャーがあった後、楽器の実演や面の説明があり、参加したヨシペル元駐日ルーマニア大使は能の衣装をまとう体験もした。また、山本能楽堂は FITS に10年連続で出演しており、片江大使より山本能楽堂に対し日ルーマニア交流促進に謝意を表する感謝状が授与された。

